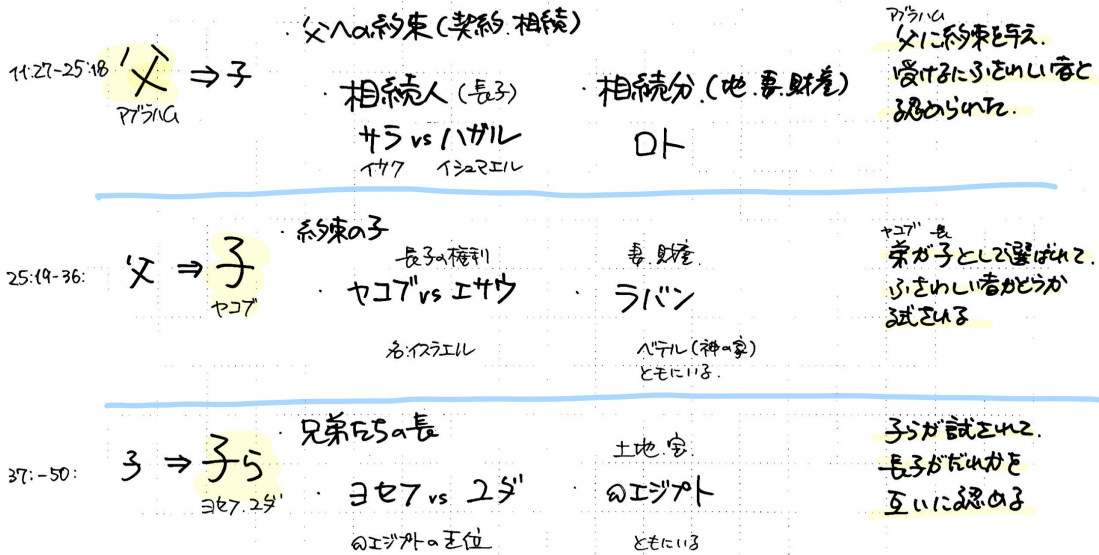




創世記 11章27節から50章

創世記 11:27-50:

2019.5.10



創世記11章27節から50章までのアブラハムの契約の流れです。

三つの大きな段落に分かれています。父と子と子ら。(表の上の2段)子が小さくて父が小さく書かれていますけど、イサクが2つの段落の両方に入っています。イサクの話というのはアブラハムの話をするのにイサクが出てきます。イサクの話は出てくるのですが、次に子がどうなのかという話をするのに、父イサクが出てきますので、両方、父の段落にも子の段落にもいます。小さい字で書いてあります。

全体を流れているのは、神様が与えてくださった契約です。アブラハム、イサク、ヤコブの神と言われているアブラハムに与えられた約束のことを、契約と言っていますが、それは相続の話です。与えられた約束は、代々相続していくものとして与えられている約束です。

アブラハムの時代に、アブラハムにだけ言われて終わるという話ではなくて、約束されていることは代々続きます。相続人がいて繁栄する相続分があるということが、祝福。いのちの祝福というのはそういうものですね。相続人がいて、財産が守られて、平和であるということが、人が欲しい物ということだと思いますけれど、その約束は、アブラハムを通して祝福が全世界に与えられるということなのですが、まずアブラハムにその約束が与えられると言った時の相続人は誰なのか、相続分はどうなってるのかということが中心に、アブラハムのことが書かれています。父アブラハムに約束を与えて、

その約束を受けるにふさわしい者だということが認められる。これが最初の段落ということになると思います。

最初にロトの話、王たちの話があって、割礼、ハガル、サラ、イシュマエル。この約束が与えられるという段落ですね。いわゆるアブラハムの契約の言葉というのは、この中にほとんど出てきます。そして、その約束が与えられるにふさわしい者かどうかを試されると、承認されるというのが、次の後半になっています。

アブラハムの場合の相続分の話は、ロトの相続分を守る、ロトを救出して正義と公義を行う、隣人を憐れむということがこのアブラハムが試されたところ。そしてイサクを捧げることによって、約束の子孫が与えられるということ。約束の子孫が与えられるにふさわしい者だということが、それで証明されているということですので、父アブラハムに約束を与えて受けるにふさわしい者と認められましたということが、この最初の段落です。

相続人の話の中では、サラとハガル、イサクとイシュマエル、相続分の話はロトの話ということで表されています。この他に敵が、異邦人がいます。

次の段落は、子供の方ですね。父から子が相続分を受けるのですが、この相続人は誰なのか、約束の子は誰なのか、長子の権利を受けるのは誰なのかという戦いが一つ。それと、その人が祝福を受けるというのがもう一つ。こちらはエサウとの戦い、こちらはラバンとの戦い。そこで弟の方が長子の権利を受けると者として選ばれています。選ぶというのが最初にあります。この段落の最初の出だしの導入のところ。選ばれた後に、ふさわしい者かどうか試されている。最初にもう選ばれてしまって、その選ばれた者にふさわしいかどうかエサウの話、そしてラバンの話。またエサウのところに戻るとことで、約束の相続人にふさわしいかどうか試されるところが、2番目の段落だと思います。ラバンのところでは、ベテルの話ですね。エサウから戻ってくる時は、イスラエルという名前という意味でも、治める者として神様の家に共にいる、祝福ということも表していると思います。

最初の1番目と2番目、父の段落と子の段落には、神様の言葉が直接あるのですが、3番目のところは夢であらわされるという段落に変わっています。3番目のところは何かと言うと、夢で始まってます。夢で指示するんですけども、エジプトに売られてという話です。この場合、ヤコブが試されているのではなくて、子供たちが試されていますよね。子供達が試されて、その中で一番偉い者、長子は誰なのかという戦いがある。互いに認めざるを得ないというものになっています。ヨセフなのかユダなのか、ルベンもいましたけど。ヨセフなのかユダなのか、エジプトにいて最も良い地も宝物も全部与えられました。神様は共にいたからとエジプトの王位も与えられたという意味で、ヨセフが長男だということが、このストーリーの中で言われていますけれど、ヤコブの段落では、先にヤコブが選ばれて、ふさわしい者かどうか試されました。子らの場合は、先に試されて、それで長子が誰かがあらわされました。互いに認め合うというのは、この後に来ているので順番が逆な感じです。約束が与えられた者に、ふさわしいかどうか試される。試されてから互い認めるという順番になっています。

前に作ったこの系図の表を見ると、アダムからずっと来ている系図ですけど、この辺の真ん中ですねアブラハム、サラ、ハガルそしてロト、イサク、イシュマエル。このあたりが取り扱われているのが最初の段落です。2番目の段落は、イサク、リベカ、ラバンがいるんですけど、ヤコブが中心になって、エサウ、ラバンと戦っているというのが、次の子の段落です。3番目の段落は、ヤコブがいますけれど、この12の部族の中で特にヨセフ、そしてユダという話が目立つ段落になっています。

アダムからセツの子孫、ノアからセム、ハム、ヤペテの子孫というところも、アダム、カイン、アベル、セツ、そしてその子供たち。ノアがいてセム、ハム、ヤペテがいてその子供たちということで、創世記全体が約束が与えられて、それがどう相続されて全世界に広がっていったのかということが、この初めの書物の概略になっています。その中で特にアブラハムに与えられた契約、それがこの3段階で広がっていったということが、この形からも分かると思います。

アブラハム、イサク、ヤコブの系図 アダム～ノア～テラ

